

◆共生ビジョン懇談会意見等検討状況

No.	分類	取組項目	意見の概要	意見に対する考え方	作業部会	現在の検討状況(H30.7.6現在)		
						①取扱区分	②考え方	③備考
1	1-2 福祉	-	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 子育て支援について、新たな予算措置は難しいにせよ、管内で様々な取り組みが行われていることを地域住民の方々に情報提供してはどうか。(吉田委員)	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会後】 今後、情報発信のあり方等について検討を行ってまいります。	医療・福祉	4) 定住自立圏の取組としての協議対象から除く	子育て支援に関する情報の発信については、各市町村がホームページやSNS、広報誌などを活用し、支援内容に応じて適切な時期、方法により住民に周知しているところです。 また、市町村によって、乳幼児医療費の助成対象者の拡大や、子育て世帯に対する相談体制の充実など、子育て支援の内容は様々であることから、今後も引き続き、各市町村が効果的な情報発信に努めてまいります。	
2	1-2 福祉	(1)地域活動支援センターの広域利用の促進	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 東大阪市には子どもから大人まで幅広い支援を受けることができる障害児者支援センターがある。 十勝・帯広においても、莫大な予算のかかるものは難しいが、何か検討できないか。(仲沢委員)	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会後】 現行の国の基本指針において、自治体や圏域に地域生活支援拠点を設置することとされており、管内においても北海道と連携しながら拠点のあり方等について検討を行ってきたところです。 現在、北海道は新たな施設整備ではなく、既存の資源を活用し、それらをつなぐことで拠点の機能を整えていくこととしており、今後も検討を進めてまいります。	医療・福祉	3) 継続協議	現在、北海道は新たな施設整備ではなく、既存の資源を活用し、それらをつなぐことで拠点の機能を整えていくこととしており、構成市町村の現状と課題の把握などの情報収集を行い、今後も検討を進めてまいります。	
3	1-4 産業振興	(5)広域観光の推進 (6)農業振興と担い手の育成	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 口蹄疫や鳥インフルエンザは外から入ってくるものなので、空港などの水際の段階で対策を講じるなど、検討をお願いしたい。(今川委員)	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会後】 現在の取り組みとしてとちか帯広空港での消毒マットの設置やレンタカー会社への注意喚起のチラシ配布を行っており、定住自立圏による広域での取り組みについては今後検討してまいります	産業振興・地産地消	4) 定住自立圏の取組としての協議対象から除く	とちか帯広空港での消毒マットの設置やレンタカー会社等への注意喚起のチラシ配布を行っており、各自治体においても防疫体制を整えていることから、本件については定住自立圏の取り組みとしての協議対象から除き、引き続き各自治体間での情報共有などを行いながら、対策を進めてまいります。	
4	1-4 産業振興	(6)農業振興と担い手の育成	【平成28年第1回共生ビジョン懇談会】 農作業に関わって、けん引免許が必要になる場合があるが、費用がネックとなり容易に取得できない状況が見られる。他県では、農業大学校で取得できる場合があるが、本別の農業大学校では在学者に限定されている。農業大学校を対象者の拡大を働きかけたり、農業者限定のけん引免許の創設を自動車学校に働きかけるなど、何らかの方策を考えられないか。(大西委員)	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 他県の農業大学校の取組状況や農業団体からの要望も踏まえ、一般農業者についての農業用限定のけん引免許研修の実施の可能性について、平成29年度より北海道農政部と協議を進めているものの、現状の人員体制等では、農業大学校での対応は難しいとの見解が示されているところです。 今後、北海道として取り組んでいただけるよう、人員体制等の見直しについて、北海道と協議を継続するとともに、必要に応じて要望活動等についても検討してまいります。	産業振興・地産地消	3) 継続協議	農業大学校での対応について、北海道と協議を継続してきましたが、人員体制等の難しい課題があるため、今後の対応について関係機関等を含め、協議・検討を進めてまいります。	
5	1-4 産業振興	(7)鳥獣害防止対策の推進	【平成29年第1回共生ビジョン懇談会後追加意見】 清水町の猟友会の方の情報で、今「アライグマ」の被害が拡大しており、ここで対策を講じなければ、大変なことになるとお聞きした。 十勝全体の問題として、取り上げるべきではないか。(残間委員)	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 今年度、十勝総合振興局が、管内市町村等を対象として、アライグマ対策講習会を開催したほか、今後のアライグマ対策の検討に向け、管内各市町村に対してヒアリングを実施するなど新たな取り組みが進められており、ヒアリングの取りまとめ状況などを情報共有し、今度の対策について検討してまいります。	産業振興・地産地消	4) 定住自立圏の取組としての協議対象から除く	昨年度より十勝総合振興局が中心となり、十勝管内アライグマ対策会議を立ち上げ、十勝管内の情報共有を図っています。昨年の取組状況は、ラジオ広告やChai(十勝管内全域フリーペーパー)への掲載の他、ポスター、チラシの配布により、アライグマへの注意喚起を行うとともに、目撃情報を呼び掛けています。 今後も、引き続きアライグマ対策会議において十勝管内の情報共有を図り、対策について検討していくことから、本件については、定住自立圏の取り組みとしての協議対象から除き、各自治体において特定外来生物防除及び有害鳥獣駆除の両面から取り組みをすすめてまいります。	
6	1-4 産業振興	(7)鳥獣害防止対策の推進	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 アライグマによる疫病やキタキツネによるエキノコックスへの対応などは切実な課題であり、早急に対応いただきたい。(福原委員)	【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会後】 エキノコックスについては、各市町村においてエキノコックス症検査を行い感染症予防に努めております。 また、アライグマ対策については、十勝総合振興局が管内自治体に聞き取りを行っており、その情報を管内で共有しながら対応を図ってまいります。	産業振興・地産地消	4) 定住自立圏の取組としての協議対象から除く		
7			【平成29年度第2回共生ビジョン懇談会】 エゾシカは電気や柵、狩猟によって対応可能であるが、アライグマは増殖すると対応が困難となる。 また、アライグマは市街地でも増殖し、生活をすることで、今後、農作物の被害以外においても大きな問題となり得ることから、早急に対応をお願いしたい。(元木委員)					